

2023年3月期 通期決算説明会 主要質疑応答

「中期経営計画 2025」における業績向上の原動力は何か。

- 試薬事業の堅実な成長と CDMO 事業の飛躍的な成長を原動力と考えています。
- 試薬事業では年率 7%の売上成長の堅持を目標とします。これまでの大学などのアカデミ向け製品に加え、あらたに産業向け (BtoB 分野) の製品開発・販売に注力することにより成長を目指します。
- CDMO事業では 2023 年度に遺伝子・細胞プロセッシングセンター2 号棟の完全実装が完了します。国内最大級の大型バイオリアクターや細胞加工室の整備により、製薬企業の後期臨床試験や上市品の製造に対応する大規模製造も可能となります。さらに増設する施設に対応する人材を採用し、専門性の高い技術研修を行い、今後の飛躍的な成長に繋げていきます。

2024年3月期の受託で、遺伝子解析/検査関連受託の売上高を45億円と前期比15億円の増収を予想しているが、増収要因は。

- 遺伝子解析/検査関連受託では、2023年3月期は、国主導の大型ゲノム解析プロジェクトの受注が縮小したため、減収となりました。当期はいくつか有力なゲノム解析プロジェクトの受注を予定しており、これを予想に反映したものです。

NY-ESO-1 siTCR®遺伝子治療薬 (TBI-1301) について、前回 (23/03 期・第3四半期) の決算発表からの更新のポイントは。

「中期経営計画 2025」の期間中に申請を目指すとのことですが、上市した場合の売上は計画に含まれていますか。

- 製造販売承認の申請に向け、当局との相談を開始しました。また、市販後の製造、販売体制の整備を進めています。
- 中期経営計画 2025 の期間中に上市を予定していますが、本日発表した売上計画には同治療薬の売上は含んでいません。

以上